



毛利元就



毛利隆元

三本の矢 伝説の地

毛利三兄弟のふるさとへようこそ



小早川隆景



吉川元春



三矢の訓
協議会

安芸高田市
北広島町
三原市

TAKE FREE



三本の矢 伝説の地

一本の矢は
折れてしまいが、
三本束ねると
容易には折れない

この「三本の矢」の教えは、戦国大名毛利元就が3人の息子に結束を説いた、三子教訓状という書状に由来する伝説とされます。

毛利一族は、この教えに従い、毛利・吉川・小早川の当主となった元就の息子らの「絆」により戦国乱世を生き抜き、西日本最大の勢力となりました。

立場が変われば肉親でも殺しあった戦国時代に、これほど「絆」を大切にしていた一族は珍しく、天下人豊臣秀吉も、一丸となった毛利の体制を、「日本二」とまで讃えたといえます。

元就と3兄弟のふるさとは、現在も彼らの生き様や活躍ぶりを示す史跡や伝統行事がいくつも伝わり、戦国を体感できる魅力にあふれています。



安芸高田市

西日本最大の戦国大名
毛利元就と隆元の
ふるさと

郡山城跡（毛利元就墓所）



北広島町

勇の猛将
吉川元春のふるさと

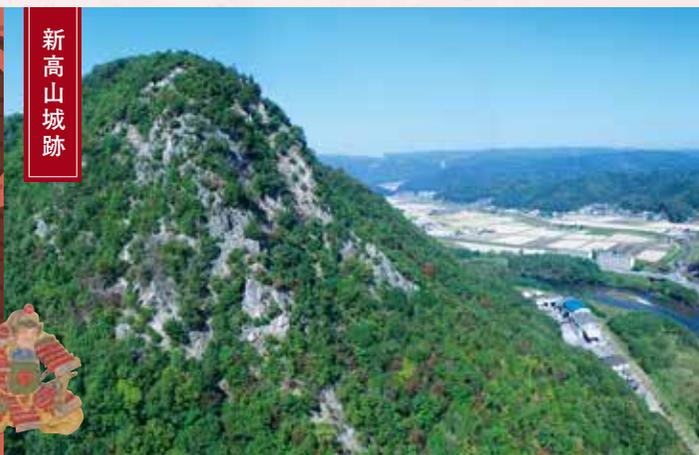
吉川元春館跡



三原市

義の智將
小早川隆景のふるさと

新高山城跡



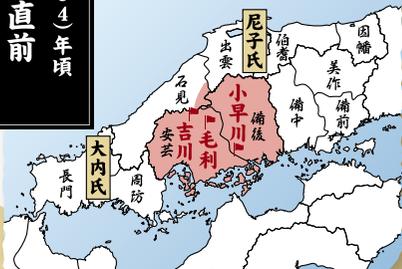
毛利一族の あゆみ

*毛利氏勢力の変遷
(□：毛利氏の領地)

①
天文10(1541)年頃
郡山合戦後
元春・隆景の養子入り前



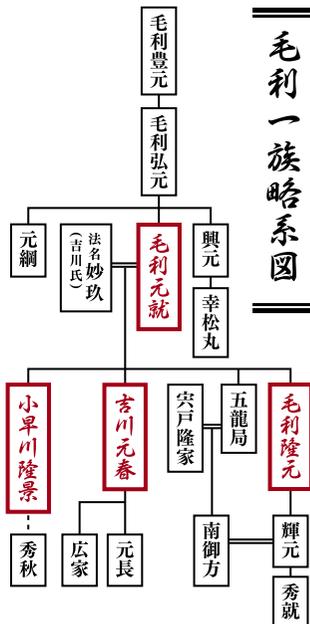
②
天文23(1554)年頃
厳島合戦直前



③
永祿12(1569)年頃
元就最晩年
大内・尼子氏を破り、
中国地方の大半を支配



毛利一族略系図



戦国時代を生き抜いた、 安芸国吉田の領主

毛利元就と3人の息子の生まれた安芸国吉田(現在の安芸高田市)における毛利氏の歴史は、建武3(1336)年に、毛利時親がこの地に移ったときから始まります。

元就が毛利家当主となったのは大永3(1523)年、27歳のとき。この頃の毛利氏は、出雲の尼子氏、周防の大内氏といった強敵に囲まれた、弱小勢力でした。

こうした中、政治戦略に長けていた元就は、大内氏の傘下に入り、周囲の勢力と婚姻関係や養子関係を結ぶなどして徐々に勢力を拡大していき、晩年には西日本最大の勢力となります。



紙本着色毛利元就像(毛利博物館蔵)



紙本着色毛利隆元像(常栄寺蔵)



吉川元春肖像画(模写版・新庄小学校蔵)

毛利3兄弟の「絆」 による躍進

毛利一族の躍進を支えたのは、元就の優秀な3人の息子でした。

当主として毛利本家を守った長男隆元。吉川家に養子入りし、現在の北広島町を中心にして山陰攻略に奮闘した次男元春。小早川家に養子入りし、現在の三原市を中心に瀬戸内の統治に活躍した三男隆景。

長男隆元の毛利本家が一族の軸となり、その毛利家を弟2人の吉川、小早川家が協力して助けたことを、毛利の名と両家の「川」の字をとって、「毛利両川体制」と呼びます。父元就と兄隆元が亡くなったのちも、元春、隆景は、甥の毛利輝元を補佐し、生涯毛利家のために尽くしました。

この親兄弟の固い絆こそが、毛利一族の強さの秘訣だったのです。



吉川元春館跡入口の石垣



神木がそびえ立つ清神社



新高山城山頂
沼田川流域を見下ろす



絹本着色小早川隆景像(米山寺蔵)



毛利のもたらした繁栄

元就と毛利3兄弟のふるさと、現在の安芸高田市、北広島町、三原市は、戦国時代の彼らの活躍によって、大きく繁栄しました。

3市町には、彼らが戦国時代を懸命に生きたことを示す文化財が多く残っています。

合戦の厳しさを思わせる山城跡。訪れる者に自らの威勢を示すような、館跡の石垣。戦に神仏の加護を得るため、厚い信仰を寄せた寺社の数々。いずれも毛利一族の歴史や生き様を物語る大切な宝です。



2

毛利元就・一族墓所 (国史跡)

元龜2(1571)年元就が75歳で没した後、孫の輝元が郡山西麓に建立した菩提寺洞春寺跡にその墓所が残ります。帯は荘厳な景観で、パワースポットとも言われています。毎年7月16日には墓前祭が行われ多くの参列者があります。
また、元就墓所の参道入口近くには、隆元の菩提寺常栄寺跡と、隆元の墓所もあります。

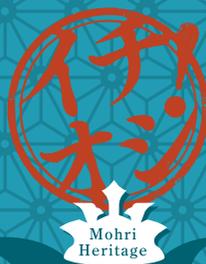


7

毛利隆元逝去の地 (市史跡)

永祿6(1563)年、隆元は出雲に備えて佐々部の連華寺に滞在中、41歳で急死しました。詳しい死因は不明ですが、隆元はこの地で火葬され、郡山城内に埋葬されました。
後世、ここに住民によって石碑が建てられています。

(常栄寺蔵)



Mohri Heritage

毛利 遺産

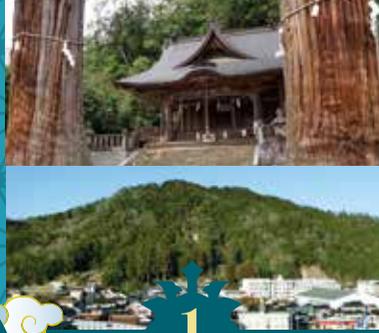
安芸高田市編

安芸高田市は、毛利元就と隆元が生まれ、その生涯を過ごした地。

南北朝期に毛利時親が安芸国に下向して以降、戦国末期に毛利輝元が広島城に移るまで、貫して安芸毛利氏歴代の本拠地でした。吉川元春や小早川隆景もこの地で生まれ、他家の養子となった後も度々この地に滞在し、元就の死後は輝元を補佐しています。



(毛利博物館蔵)



1

郡山城跡・清神社 (国史跡、日本100名城)

戦国大名毛利氏の本拠城で、標高390mの山頂を中心に築かれた巨大な山城跡。大永3(1523)年、毛利氏の当主となった元就が入城し、勢力拡大に伴い城を全山に拡張していったと考えられています。
また、山麓には毛利氏ゆかりの清神社があります。境内には5本の杉の巨木があり、毎年Jリーグサンフレッチェ広島が必勝祈願をしています。



6

五龍城跡 (県史跡)

国人領主穴戸氏の居城として知られる山城跡です。穴戸隆家は元就の娘と婚姻し、両氏は同盟関係となりました。その後も、穴戸氏は毛利一門として五龍城を拠点に毛利氏を支え続けました。細長い尾根上に多数の郭が連なり、石垣、土塁や堀切等が多数残ります。



5

鈴尾城跡

(県史跡)

毛利氏の重臣福原氏の居城で、別名福原城とも呼ばれています。福原氏は古くから一族として毛利氏を支え、元就の母は福原氏の出身です。城跡の遺構はよく残り、山道も整備されています。城跡の約300m東には福原氏墓所(市史跡)も残ります。



4

多治比猿掛城跡

(国史跡)

元就が父弘元に連れられて郡山城から移り住んだ城跡。中腹にある本丸の背後に残る巨大な堀切がみどころ。元就はここで27歳までを過ごしており、郡山城の西の要衝として重要な拠点であったと思われる。



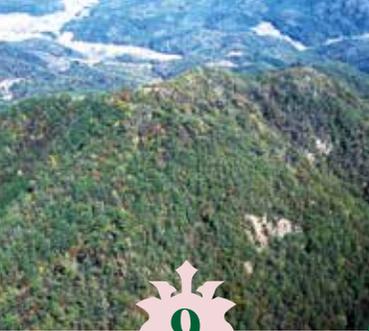
3

宮崎神社

(市史跡)

南北朝期に相模から勧請され、毛利氏の氏神として、歴代の当主に崇敬されてきました。度々兵火に遭いましたが、元就によって再建されています。現在、玉殿など毛利氏時代の貴重な文化財が伝わっています。





9

日山城跡

(国史跡)

吉川興経が天文14(1545)年に小倉山城から本拠を移し、その後元春・元長・広家が居城とした吉川氏の本拠城。標高700mの山頂に築かれ、東西700mの範囲に28もの郭を配する大規模な山城跡です。城内各所には石垣・石塁・土塁・土橋が、城の中腹には元春母の菩提寺(淨心寺跡)が残ります。



Mohri Heritage

毛利遺産

北広島町 編

北広島町は、次男 吉川元春のふるさと。吉川氏へ養子に入った元春は、毛利氏の中国地方統一を助け、主に山陰の攻略や支配に当たり、陶氏、尼子氏、大友氏や豊臣秀吉の軍勢と戦います。吉川氏の鎌倉末期入部以降の城・寺・館跡の9つの遺跡とそれを取り巻く景観や関連遺跡が良好に残っており、国の史跡に指定されています。



8

小倉山城跡

(国史跡、歴史公園)

吉川経見が15世紀前半に築城し、天文14(1545)年に吉川興経が日山城に移るまでの吉川氏の本拠城。城は石見国への交通路を押さえる標高460m、比高80mの小倉山の山頂を中心とし、発掘調査を行った本丸郭群では建物跡、門跡、堀跡、土塁などがみつけられました。



14

枝宮八幡神社

(県重要文化財(本殿・狛犬))

鎌倉時代の元応元(1319)年の史料にその名がみえ、現在の本殿は元春・元長父子によって再建されました。神社に伝わる木造狛犬は、足裏の墨書から応安7(1374)年に吉川庶子家が寄進したことがわかります。



13

古保利薬師

(国重要文化財)

奈良・平安期に山県郡司として一帯を治めた豪族凡氏氏が建立した福光寺を起源とし(現廃寺)、吉川氏入部後はその祈願所として、盛時は49坊、寺領300石を擁したと言われます。本尊薬師如来座像をはじめ12体の平安初期仏が国の重要文化財に指定されています。





12

龍山八幡神社

(国重要文化財(本殿))

吉川氏の氏神。鎌倉時代末期に吉川氏が
大朝本庄に地頭として入った時に駿河国
(静岡県)から勧請したと伝えられています。
現在の本殿は永禄元(1558)年に元春
が再建したもので、県内では敵島神社に
次いで古い神社建造物といわれています。三
間社流造。

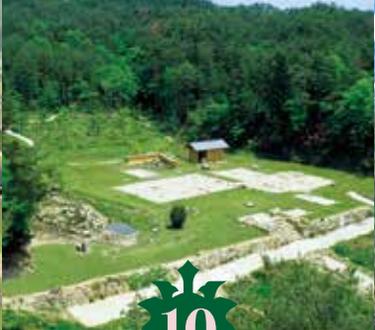


11

吉川元春館跡

(国史跡 国名勝(庭園)、歴史公園)

元春が天正11(1583)年頃、日山城の
南西麓に建てた隠居所の跡。館は石垣が
ある東を正面とし間口110m、奥行き80m
の規模で、発掘調査により建物跡、井戸、
庭園、便所跡、溝などがみつきり、併設する
「戦国の庭 歴史館」では、吉川氏の歴史や
出土品を展示しています。



10

万徳院跡

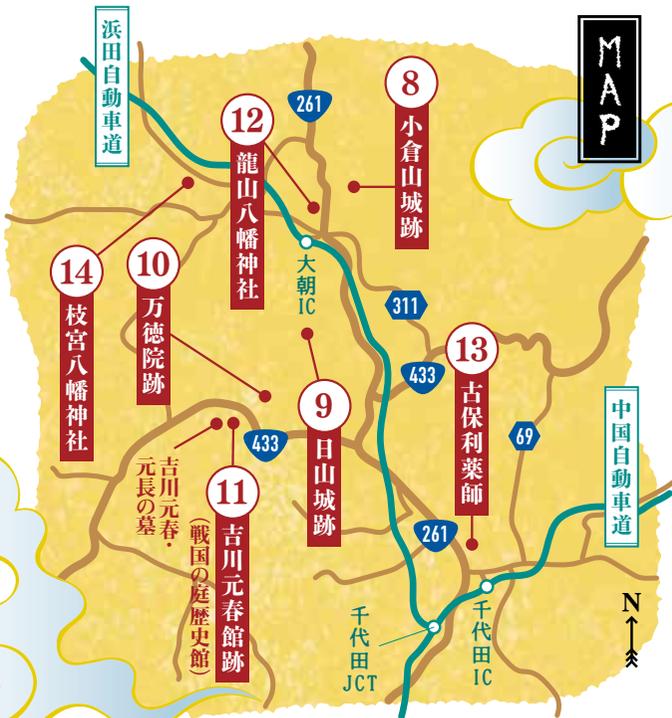
(国史跡、国名勝(庭園)、歴史公園)

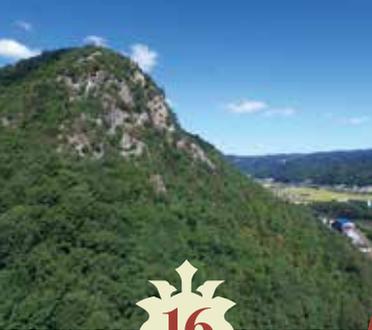
天正3(1575)年頃、吉川元長が
日山城の南西麓に別邸として建て、元長
死後は弟の広家が兄の菩提寺として改修。
境内地は正面を石垣で区画した間口72m、
奥行き45mの規模で、発掘調査により
本堂、庫裏、霊屋・風呂屋などの建物跡や池
庭、水道施設などがみつきりました。

エドコロ

各所に残る石垣、 民俗芸能の継承

吉川元春館跡をはじめ町内各所に
残る当時の石垣は圧巻! また、吉川氏
に由来する民俗芸能(花笠おどり、
南条おどり、火の山おどり)いずれも
県民俗文化財も継承されています。





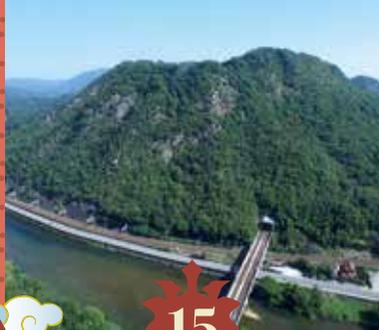
16

新高山城跡

(国史跡、続日本100名城)

隆景が、沼田川をはさんで高山城の対岸に築いた山城。

標高197.6m、東西約400mの縄張りをもち、本丸・中の丸などの内郭部を鐘の段などの外郭部で防御する構造など、張り巡らされた守りの工夫が、智将といわれた隆景の人物像を思わせます。



15

高山城跡

(国史跡)

小早川家4代茂平の築城と伝わる、標高190mの山頂に築かれた山城跡。

高山城は、沼田小早川氏の本拠地で、南北朝時代には竹原小早川氏との激しい戦場となりました。両小早川を統一した隆景は、天文20(1551)年に高山城へ入城しています。

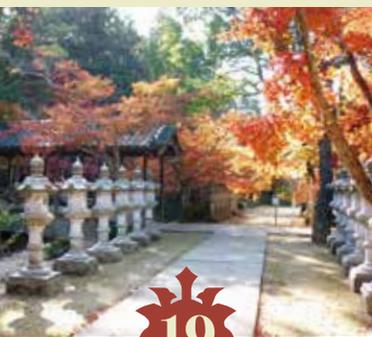


Mohri Heritage

毛利遺産

三原市編

三原市は、三男 小早川隆景のふるさと。
竹原小早川氏に養子入りした隆景は、竹原小早川と沼田小早川を統一し、強力な水軍を擁するなどして、毛利一族の瀬戸内支配を助けました。義理に厚い人物として豊臣秀吉にも重宝され、豊臣政権の五大老も務めました。



17

佛通寺

(市史跡・名勝)

小早川9代春平が、名僧愚中周及を迎えて建立した寺院。

日本屈指の禅道場として知られる臨済宗大本山で、隆景からも厚く庇護を受けました。

岩肌の山中にあり、紅葉時の山道の美しさは圧倒的です。

(米山寺蔵)



18

久井稻生神社

(県重要文化財(紙本墨書大般若経))

伏見稻荷神社の最古の分霊とされる神社で、毛利族から厚い信仰を受け、元就が本殿、隆景が社殿を造営しています。神社に伝わる大般若経は、隆景が寄進したものです。

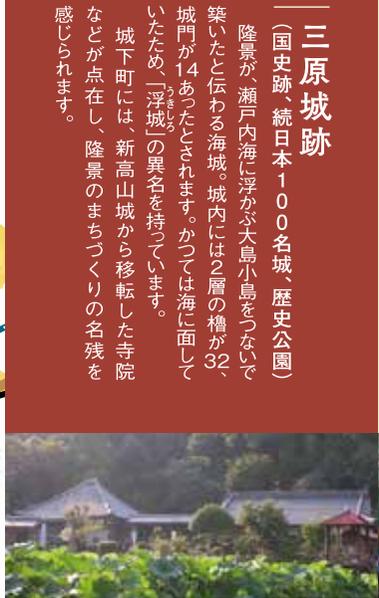
毎年10月の御当神事は、手を触れず包丁と金箸で鯛を捌き会食する珍しい行事で、400年前の古文書にも記録が残っています。



17

三原城跡

〔国史跡〕続日本100名城、歴史公園
 隆景が瀬戸内海に浮かぶ大島小島をつないで築いたと伝わる海城。城内には2層の櫓が32、城門が14あったとされます。かつては海に面していたため、「浮城」の異名を持っています。
 城下町には、新高山城から移転した寺院などが点在し、隆景のまちづくりの名残を感じられます。



20

棲眞寺

〔重要文化財(木造二十八部衆立像)〕
 元就と隆元が、新高山城の隆景を訪ねた帰路に棲眞寺に立ち寄り、濃雪の滝を見物し、一献設けたと伝わります。鎌倉時代制作の二十八部衆立像など、貴重な文化財を所蔵しています。
 7月〜8月には蓮池に美しい花が咲き、付近の展望台からは日本一のアーチ橋「広島空港大橋」が望めます。

エドコロ

新幹線が通るお城

隆景が治めた三原市の3つの城跡は、「小早川氏城跡」として国史跡に指定されていますが、奇しくも、3つ全ての城跡をJ-R山陽新幹線の線路が通っています。
 新幹線が隆景のお城を通過していく様子を、写真に撮って巡ってみてはいかがでしょうか。



三子教訓状の教え

元就は弘治3（1557）年11月25日、3人の息子に自筆の書状を記し、互いに協力し戦国時代を生き抜くよう、教えました。下剋上の時代に裏切りなく繁栄した毛利家の強さの秘訣を、この書状から読み取ることができます。

意訳抜粋

毛利の名字を残すために、3人で協力しなさい。
毛利本家が力を持つからこそ、吉川・小早川も繁栄します。

毛利一族を憎く思う者は多く、互いが少しでも疎遠になれば、3人ともすぐ滅ぼされてしまうでしょう。

隆元は弟たちと意見が食い違ってもよく生きてやり、元春・隆景は当主の隆元をたて、よく従いなさい。



三子教訓状（部分、毛利博物館蔵）

元就が伝えたこと

3人が協力することこそが、亡き母妙玖へのなによりの供養です。

五龍局（元就の娘）が嫁いだ
穴戸氏とも、同様に協力しなさい。

（意訳参考 図録「毛利元就」毛利博物館、平成19年）

元就は、戦国時代を生き延びてきた苦勞を振り返りながら、「3人が結束しなければ、毛利家はすぐ滅びてしまう」と、世の厳しさを語っています。この過酷な世を生き抜くために、毛利本家を中心とした体制を維持していくことと、そのために、血縁で結ばれた毛利氏、吉川氏、小早川氏、穴戸氏が、互いの立場を思いやり結束することの大切さを、元就は伝えたかったのです。

元就と隆元が遠路はるばる新高山城を訪ね、隆景が2人を歓待したことや、病に伏した元春を元就、隆元、隆景があれこれ心配して医師、薬、食べ物を手配したことなどが記録に残っており、父の教えのとおり3兄弟が互いをよく思いやっていたことが分かります。





すごい
迫力!



安芸高田市
公式マスコット
キャラクター
たかたん



芸北神楽



毛利
三兄弟の
ふるさと

安芸高田市、北広島町は、屈指の神楽どころ。
この地で舞われる芸北神楽は、派手で激しい舞が特徴で、
観る者を圧倒し、魅了します。

各神社へ舞を奉納する秋が最盛期ですが、安芸高田市の
神楽門前湯治村では、季節を問わず、毎週末に実演を觀賞
でき、7月には「神楽ドーム」で「高校生の神楽甲子園」も
開催されます。また、北広島町の道の駅「舞ロード」でも、月に
1回神楽が上演されています。

「元就公」(安芸高田市)や「吉川元春」(北広島町)といった、
毛利一族を題材にした演目も作られています。

華やかな
花田植!



北広島町
イメージ
キャラクター
花田舞太郎

花やし田植



はやし田・花田植は、5月～6月に行われる、安芸高田市、北広島町で盛んな
田植行事です。

稲作の平穏と豊穡の祈願や、農村における数少ない娯楽として行われて
きたもので、その起源は中世までさかのぼります。中でも北広島町の「^{みづの}王生
の花田植」は、ユネスコの無形文化遺産にも登録されている、地域の農耕
文化を伝承する貴重な民俗芸能です。

早乙女が、はやし方の太鼓や笛で奏でる音に合わせ、唄いながら苗を植える
華やかな様子が見どころです。

8月に三原市で開催される祭りで、祭りで披露
される三原やっさ踊りは、隆景の三原城築城を
祝い城下の人々が踊ったのが始まり
ともいわれます。JR三原駅前が
人で埋め尽くされ、老若男女が
はやししながら城下町を踊り
歩く様は、壮観です。

毎年、迫力満点の「やっさ
花火」も打ち上げられる、
三原の夏の風物詩です。



やっさ
やっさ

三原市
公式マスコット
キャラクター
やっさたるマン

三原 やっさ祭り



巡ろう！

毛利三兄弟のふるさと



神楽門前湯治村



昔懐かしい街並みを再現した空間には、天然ラドン温泉や宿泊施設、食事処、みやげ店などが軒を連ねる。

週末にはかむくら座や神楽ドームで神楽公演が行われます。

土師ダム サイクリングターミナル



土師ダム湖畔の四季を通じて楽しめる癒しの場所。土師ダム周辺の娯楽、スポーツ、お食事の拠点はここです。

安芸高田市

広島県



■安芸高田市

郡山城跡へ

〈自動車〉山陽道「広島IC」から約1時間、
中国自動車道「高田IC」から約15分
〈バス〉広島バスセンター(広島市中区)から吉田行き
約1時間30分、「安芸高田市役所前」下車

猿掛城跡へ

〈自動車〉中国自動車道「高田IC」から車で約10分

■北広島町

日山城跡へ

〈自動車〉中国自動車道「千代田IC」または
浜田自動車道「大朝IC」から
登山口まで車で約20分

吉川元春館跡へ

〈自動車〉中国自動車道「千代田IC」または
浜田自動車道「大朝IC」から車で約20分

■三原市

三原城跡へ

〈電車〉JR三原駅下車すぐ
〈自動車〉山陽自動車道「本郷IC」から約30分または
「三原久井IC」から車で約20分

高山城跡・新高山城跡へ

〈電車〉JR本郷駅から登山口までそれぞれ徒歩約20分
〈自動車〉山陽自動車道「本郷IC」からそれぞれ約10分

✈ 広島空港から

安芸高田市・北広島町へは、広島バスセンター(広島市)まで空港発バス等で移動し、各方面へのバスをご利用ください。「安芸高田市役所前」へ約1時間30分、「千代田IC」へ約45分)

三原市へは、空港からJR三原駅まで、バスで約40分



安芸高田市!!

北広島市!!

三原市!!



おしえ
三矢の訓協議会

[広島県安芸高田市・北広島町・三原市]

監修 秋山伸隆(県立広島大学 名誉教授)

- 安芸高田市 商工観光課 TEL 0826-47-4024
- 北広島町 商工観光課 TEL 050-5812-8080
- 三原市 観光課 TEL 0848-67-6014